



大阪府連通信
2018年9月号

日本中国友好協会
大阪府連合会
〒530-0012
大阪市北区
芝田2-3-19
東洋ビル本館207
TEL06-6372-8131
FAX06-6372-8132
郵便振替口座
00970-5-8978
E-mail: info@
jcfaosaka.org
http://
jcfaosaka.org/

第5回中国百科検定 12月に実施 ユネスコ協会や春秋航空が支援

『中国百科検定』は「日中両国は1級（百科教師コース）を新設の關係改善のためには、まず相手国への理解を深めることが大切」との強い思いから誕生しました。中国語の能力ではなく、中国の歴史・地理・政治経済・文化等、多方面の知識を問う、日本でも極めてユニークな検定試験です。

2014年3月、東京・大阪・福岡の3会場で第1回が開催され、366人が3級（ものしりコース）を受験しました。

第2回は2015年9月に開催され、会場を全国各地（32カ所）に広げ、2級（中国通コース）を新設、受験者は474人まで増えました。

2017年3月実施の第3回で、今年3月の第4回検定試験では、新たに分野別の「特級」を新設し1級合格者の要望に応えました。第5回中国百科検定は12月に実施予定です。今回から「初級」コースが新設され、中国に特別関心がない人でも知っているような知識で、小・中学生も受験できるレベルです。受験対象者を思いきって広げ、支部やグループが「中国を知る学習会」を企画し、役員や会員が積極的に受験しましょう。大阪会場は決まり次第お知らせします。



西日本豪雨被災者への 支援募金のお願い

日中友好協会が訴えた「募金」に、役員を中心に寄せられた第一次分として本部に送金しました。すでにご協力されておられると思いますが、府連事務所で届けていただければ本部に送金します。

中国語講座 無料入門レッスン

① 9/27 (木) 18:30~
② 9/29 (土) 10:00~
会場：大阪府連教室
初心者を対象とした講座で、定員は各回14名です。
第109期中国語講座は10月1日(月)から

「納涼のつどい」で3名入会城北支部

城北支部準備会は8月19日会中友好協会「納涼のつどい」を学習会の質問も織り交ぜておこ催し、会員でない人も含め16名が参加しました。



大西恵美子さんと松尾で進行し、支部結成準備会の佐藤倫理さんが世話人を代表して、この間の取り組みを報告し、城北地域の会員でつどえたことがうれしいと開会のあいさつをおこないました。

府連から山本恒人副会長が、「最近の中国の政治経済情勢」ミニ学習とこの間の大阪府連の取組を紹介をプロジェクターを使ってわかりやすく報告。渡辺武会長の乾杯の音頭、事務局の準備した酒肴をつまみながらしほしほも「じょうほく」と確認されま

「全員が発言し、お客をつくらない」活動の基本に、「百科検定」の学習会など地域での活動実績を重ねて、それぞれの知り合いに声をかけ、仲間増やしを旺盛に

進め、来年の全国大会までに支部を結成することが確認されました。支部結成準備会役員体制、運営要項が承認され、支部の呼称も「じょうほく」と確認されました。この「つどい」で3名の入会が増えました。(松尾 豊)

南京の記憶をつなぐ会

過去の歴史を正面から見据え、同じ過ちを繰り返さないために、中国侵略の象徴である「南京大虐殺」の事実を明らかにしていこうと取り組んでいます。参加協力費500円

9月29日(土) 1時半 国労大阪会館大会議室
記念講演「南京大虐殺その時大阪では？」
塚崎昌之さん (元府立高校社会科教員)

第3回市民公開講座 いまに続く戦争の惨禍！

日本軍が遺棄した毒ガスの現状

堺支部は第3回市民公開講座を開きます。調査・治療・支援に関わった中川元小児科医師が映像で報告します。

9月30日(日) 1時半 堺市立国際交流プラザ
堺市役所北側・堺東EH第3ビル 6階大会議室
資料代500円

空海の初上陸地「赤岸鎮」へ 福建省赤岸鎮 空海祈念堂訪問記 ③

管理棟から出てきたのは日本人 苦勞があったことが推察できる。僧侶ではなかった。管理を任されている近くの人らしい。この管理棟は、中島龍太郎氏の「入唐見聞録」によれば「遍照閣という僧房」とのこと。「你好」と挨拶する。汪敏さんが私のことをいろいろ話してくれた。すると、管理人さんは、記念堂を開けてくれると言う。思わぬことで「ありがとうございます！」と日本語で言ってお堂に入った。



空海入唐の地—赤岸—

中には、遣唐使船の模型、空海記念堂のパノラマ図、弘法大師空海の掛け軸、高野山高校の研修訪問団の「日中友好」記念旗、空海の立像、曼荼羅などが展示してあった。空海の立像の前では思わず合唱した。

空海は中日友好の先駆、赤岸は中日友好の経地

祈念堂の裏側に「空海入唐之地—赤岸—」の見出しで始まる歴史が書かれた石板があった。「唐貞元二十年（八零四年）日本高僧空海乗遣唐使船入唐求法—略—漂着—福州長溪県赤岸鎮已南海口—幸我我当地官民救援、滞留四十一天后、水陸兼程發長安、留学二年、「日本文化史之人杰、中日友好之先驅」赤岸、遂縁施為恩徳、被奉為日本佛教、中日友好之一方「経地—略—」

祈念堂は博物館のよう

祈念堂の外観はお寺であったが、内部は寺というよりも博物館の雰囲気であった。それもそのはずである。前述の中島氏によれば「空海祈念堂は、お寺と言えはお寺なのですが、社会主義の中国では体制上、外国人による宗教活動を認めておりません。」ということだ。祈念堂の建設や長期滞在は様々な史的な地であった。

(堺支部長 浅田勝美)

日中不再戦 長谷川テル顕彰の旅へ 墓前で「希望の鳩」を熱唱

奈良・大阪長谷川テル顕彰の 献花・黙禱に続き、会25名は、8月23日から6日間、宮城団長が呼びかけ、ハルビン、ジャムスへ行ってきました。ハルビンから方正へ、日本人公墓（国交回復前1963年中央政府。周恩来元総理等のはからいで建立）にて全員で黙禱しました。

25日は最大の目的であった墓前および表敬訪問です、当日はあいにくの雨でしたが、まずジャムス烈士陵園の共通の碑へ献花・黙禱し、長谷川テル・劉仁の墓前へ向かいました。長谷川テル墓園記念式典では



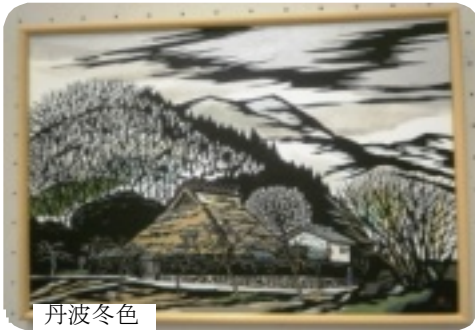
持ってきたバックミュージックとそれに加えて塩田朝子さんのオカリナ演奏のもと、日本語・中国語を交えて熱唱していただき、参加者一同の心に響くものとなりました。最後に平和を守り、憲法9条を守ることをお誓いして終えました。

佳木斯人民政府表敬訪問では親しく懇談、休日にもかかわらず、日本の一民間団体へ丁寧な対応していただき、大変うれしく思うと同時に、加害の反省と二度と再び過ちを繰り返してならないと心に刻みました。(平松悦雄)

第56回具現展にきりえ並ぶ

具現展にきりえジャンルが設けられたのは1975年、加藤義明氏を会員に迎えることでした。「きりえジャンルの確立」を目指していた加藤氏にとつて願ってもないことでした。以来44年、今年も前田尋の50号と30号を始め、他3人の30号クラスの大作

、計8点が大阪市立美術館に展示されました。今年は何年に比べ少し



丹波冬色

少ないものの、具現展の顔と大阪府連で、加藤氏が初めてのきりえ講座を催して、今年50年の節目です。さらに充実しているのか、求めているのか。

(前田尋)

第41回全大阪きりえ美術展

10月17日(水)〜21日(日) 10時から5時
大阪市立住まいのミュージアム・ギャラリー
地下鉄・天六 3番出口

